

2026 認知神経リハビリテーション・アドバンスコース（神経変性疾患・対面）／プログラム

＜神経変性疾患の行為における予測と臨床応用＞

開催日：2026 年 3 月 29 日（日） 会場：東京都立大学 荒川キャンパス

08:40-09:00 受付

09:00-09:10 オープニング(オリエンテーション、コースの位置付け、プログラム構成、懇親会案内など)

09:10-09:50 講義① 神経変性疾患と認知神経リハビリテーション（菊地）

キーワード：神経変性疾患の現象／神経症候学／認知神経リハビリテーション

目標：神経変性疾患の特異的な現象の観察から、認知神経リハビリテーションと神経変性疾患の接点を学ぶ

09:55-10:35 講義② 神経変性疾患における運動学習と認知神経理論（奥田）

キーワード：認知神経理論／身体と環境の相互作用／運動学習

目標：神経変性疾患の観察や運動特性をもとに病態に応じた運動学習の進め方を理解する

10:40-11:20 講義③ 神経変性疾患の認知的側面から考える現象の理解と解釈（高橋）

キーワード：意思決定／判断／認知機能

目標：神経変性疾患の行為の獲得に認知機能がどのように関わるかを明らかにし、病態の理解と観察につなげる

11:25-12:05 講義④ 神経変性疾患の言語機能から考える現象の解釈と介入の提案（林田）

キーワード：意図／予測／言語機能

目標：神経変性疾患の行為の獲得に言語機能がどのように影響するかを整理し、病態に応じた観察と介入に結びつける

12:05-12:10 質疑応答

12:10-12:55 昼休憩（45 分）

13:00-13:45 講義⑤ 神経変性疾患の予測と感覚誤差に基づく病態理解の実際（青木）

キーワード：外部・内部観察／予測／感覚誤差

目標：認知神経リハビリテーションの基盤となる予測誤差の概念を整理し、パーキンソン病の行為の観察から予測と感覚誤差における病態の理解を深める

13:50-14:40 講義⑥ パーキンソン病の姿勢異常を行為と予測の観点から理解する（三上） 講義・実技

キーワード：姿勢異常／予測／自己運動モニタリング

目標：パーキンソン病の姿勢異常は多要因が関与し多面的な評価が必要なことを理解する。また、姿勢異常を行為と予測の観点から整理し、介入可能性について学ぶ

14:45-15:25 講義⑦ パーキンソン病の転倒を情動と予測の観点から捉え直す（森）

キーワード：姿勢不安定性／情動／予測

目標：パーキンソン病の転倒恐怖心を認知・感情領域の障害として整理し、動的バランス障害の介入可能性を学ぶ

15:30-16:20 講義⑧ 繰り返す転倒の背景にあるパーキンソン病の病態分類を試みる（奥埜） 講義・グループワーク

キーワード：バランス障害／転倒／病態分類

目標：パーキンソン病の繰り返す転倒をバランス障害と予測の観点から整理し、介入可能性について学ぶ

16:25-16:55 シンポジウム -神経変性疾患における行為と予測について（奥埜・菊地・三上）

キーワード：神経変性疾患／行為／予測

目標：これまでの講義を通して神経変性疾患の行為と予測の枠組みを臨床での応用と課題を考える

16:55-17:05 クロージング（質疑応答）、本コースの学びから臨床応用へ向けて（森）

17:05-17:10 エンディング(終了のあいさつ、入会案内、地域勉強会、その他の事業について)

18:00 – 懇親会(会場周辺、参加費 5000 円 ※詳細は別途ご案内いたします)